

【研究課題名】自己免疫性胃炎の胃 X 線画像の特徴

【研究期間】倫理委員会承認日から 2025 年 12 月 31 日まで

【研究責任者】

研究代表施設：公益財団法人 とくしま未来健康づくり機構徳島県総合健診センター

研究責任者：青木利佳

【研究の目的】近年、胃 X 線画像におけるヘリコバクターピロリ感染胃炎の診断について、様々な所見が報告され、一定の見解が得られています。一方、自己免疫性胃炎も高度萎縮性胃炎を引き起こすことが知られていますが、ヘリコバクターピロリ感染胃炎と比較すると、極めて稀な疾患とされてきたため、その特徴は終末期の自己免疫性胃炎の内視鏡所見の特徴である内視鏡的逆萎縮のみが報告されていました。しかし、検診の場でもしばしば経験される疾患ということがわかってきました。また、症例の蓄積と共に、自己免疫性胃炎の内視鏡像、病理像、病期なども、徐々に明らかとなってきています。一方、X 線像についての報告は少なく、胃がんスクリーニングとして行われている膨大な数の胃 X 線検査受検者においては、多くの自己免疫性胃炎が診断されずにいます。本研究はこうした背景を踏まえ、当センターで自己免疫性胃炎と診断された 32 例を対象に、H. pylori 感染胃炎および、未感染正常胃との所見の違いを解析することで自己免疫性胃炎の X 線像の特徴を明らかにすることを目的とします。

【研究の方法】当センターにおいて、登録期間（2014 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日）に胃の検査（胃 X 線検査または胃内視鏡検査）を受診した人の中で、自己免疫性胃炎と診断された人と、年齢性別を一致させた自己免疫性胃炎以外のヘリコバクターピロリ現感染の人や未感染の人を対象として、その群間の違いを画像所見で比較検討します。

また、得られた研究成果は、被験者が特定できないようにした上で、学術的な発表等(学会報告・論文執筆)で公表します。

【倫理面】「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従い、厳重な個人情報保護に留意します。本申請は、既存資料を用いたものであり、新たな侵襲は伴わず、また介入を行わない研究です。文書によるインフォームド・コンセントはありませんが、情報公開のため、このホームページに掲載します。当機構の倫理審査委員会の承認を得ています。

この研究を拒否する場合、またお問い合わせがありましたら、以下の連絡先へご照会ください。

【問い合わせ先】

徳島市蔵本町 1 丁目 10 番地 3

とくしま未来健康づくり機構

TEL：088-633-2266

診療部 医長 青木利佳